

# 電子データを積極的に活用した在庫管理の実現

## 株式会社 栃木屋



木村 典宏

### 改善ポイント

的確な運用を可能とする在庫管理ルールの策定  
実績データの活用による商品在庫の活性化  
ERP導入による全体システムの最適化と投資効果の向上

### 全社システムの再構築に挑む

株式会社栃木屋は、産業用機構部品の製作並びに販売を行っている会社です(本社・東京神田)。同社の取扱商品は、通信用機器・コンピュータ関係機器・送配電機器・放送関連機器などであり、社会のニーズに応えるためにさまざまな分野に広がっています。

産業用機構部品は、近年急速に技術革新が進み、商品サイクルが短期化しています。そのため、顧客の要求をタイムリーに把握し、的確な商品在庫を確保しなければ、欠品による機会の損失や売れ残りによる不在庫が発生する可能性が非常に高くなっています。

これまで同社で使用してきた汎用機での独自開発型の情報システムでは、このようなビジネス環境の変化に柔軟に対応していくことは難しいと判断し、全社システムの再構築に挑むことになりました。

### 課題と改善の方向性

現状分析を行った結果、次のような課題が明らかになり、それぞれに対して改善の方向性を具体化しました。

### 【課題】

- 在庫データの精度があまり高くない。  
欠品、不在庫が発生している。  
在庫資産の圧縮要求が強まっている。

### 【改善の方向性】

- 情報システムと一体化した業務運用ルールの策定によるデータ精度の向上
- 実際の物流と情報システム上の電子データとの整合性を確保するための業務フローを策定
- 月次循環棚卸し(※)の実施によるデータチェック  
実績データをもとにした在庫管理ルールの策定による適正在庫の実現
- 実績データをもとに商品ごとの重要性を明確にし、種別ごとに管理ルールを策定
- 不在庫の定義を行い、発生した場合の処置手続きを明確化  
発注点・発注ロットの定期的な見直しルールの策定による仕入れの最適化
- 需要に見合った仕入れを行うための発注点と発注ロット見直しルールを策定

### 実績データによる商品区分の設定

同社の取扱商品には9000点を越す種類があり、すべてを同一の厳格な管理で運用することは、作業負荷的に現実的ではありません。そのため、商品の重要度別に区分を設け、管理基準を段階的に設定しました。

このような在庫管理方法として、世間一般で広く利用

されているのがABC分析(※)です。この理論は、販売実績データからA、B、Cの三分の区分に分けて、区分ごとに管理基準を設定するという考え方です。効率的な在庫管理を行うには非常に優れた理論ですが、同社で実際に運用するためには、区分設定の方法にもう一段階の工夫が必要になりました。

同社の取扱商品を通常のABC分析を用いて分けると、対象範囲が大きくなり、循環棚卸しなどの作業負荷が高く、実現は困難でした。そのため、単純な販売実績による区分ではなく、粗利と単価も考慮した独自の四つの区分設定を行いました。そして、この区分ごとに発注規定を設定し、利益に結びつくものを重視した仕入れ予算を作成する方針としました。

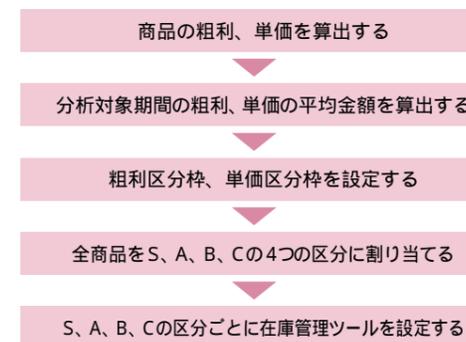
また、在庫管理ルールの運用が的確に実施されているかを判断する指標として、四つの区分ごとに目標在庫月数を設定し、運用結果の評価を容易に行えるようにしました。

これらの検討の結果、商品種類が非常に多い場合でも欠品の防止と在庫資産圧縮が可能で在庫管理ルールを策定することが可能となりました。

### 新情報システムの形態

新たに策定した在庫管理ルールをサポートすることに重点を置いて、新情報システムの要件定義を検討してきました。特に、在庫管理に必要なデータをいつでも容易に取り出せ、各人のパソコンに取り込んで自由に分析できる環境の実現を重要視しました。また、その分析結果

### 図 実績データによる商品区分の手順



株式会社 栃木屋  
本社所在地 東京都千代田区内神田2-11-1  
電話番号 03(3254)2041  
代表者 栃木 一夫  
http://www.tochigiya.co.jp/

果を全社で情報共有できる仕組みについても考慮しました。

その結果、オープンシステム(※)上で稼働するERP(※: Enterprise Resource Planning)パッケージを導入することにしました。オープンシステムを採用することによって、データ連携の自由度が格段に向上し、ERPによって機能やデータの重複が無くなり、データの精度向上や情報システムの運用効率も向上します。また、ERPはパッケージ製品であるため、投資費用が独自開発型のシステムと比較すると低コストで、導入期間も短期間で済みます。

### プロジェクト成功のポイント

新情報システムの要件定義を策定後、同社は情報システム開発の委託先を選定し、開発業務を進めています。今回の計画策定には全社的な取り組みが必要であることをご理解いただき、同社の事務局のかたをはじめ各部署のかたがたのご協力をいただきました。

システムを構築するのは、情報部門やシステム開発会社になりますが、目的を決定するのは経営者であり、使用するのは現場の担当者です。関係者全員の意思疎通を深め、目的に向かって力を合わせることで、プロジェクト成功のポイントです。

新情報システムの構築が、在庫管理の強化と受注・出荷業務の効率化を図り、優れた機構部品の流通に貢献するものと期待しております。(きむら・のりひろ)

### 用語解説

※循環棚卸し: 全商品を一斉に棚卸しするのではなく、いくつかのグループに分けて年度内、一期内で計画的に棚卸しが完了するよう、グループごとに順次棚卸しを行う方法のこと。

※ABC分析: 取扱商品の実績をもとに販売、仕入れ、在庫のデータなどを分析し、多品目商品の在庫管理を効果的に行うための分析方法のこと。重点的に管理する商品を明確にし、在庫管

理の方針やウエートを明らかにして、限られた人員、時間、在庫資金、在庫スペース等を有効に活用する。

### 用語解説

※オープンシステム: さまざまなメーカーのソフトウェアやハードウェアを組み合わせて構築されたコンピュータシステムのこと。各社の外部仕様が公開されているため、価格や性能を比較

し、最も良い製品を組み合わせ使用することが可能となる。

※ERP: 「企業資源計画」の略。企業全体を経営資源の有効活用の観点か

ら統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念のこと。これを実現するための統合型(業務横断型)ソフトウェアをERPパッケージと呼ぶ。